



日薬連

低炭素社会実行計画の取り組み

2021年2月25日（木）

経団連低炭素社会実行計画への対応



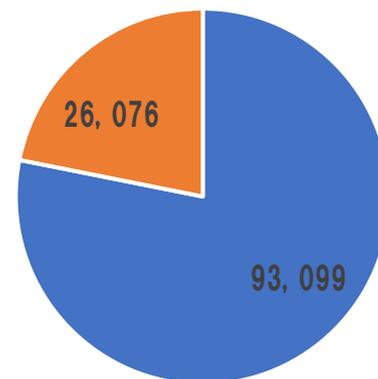
- 日薬連低炭素社会実行計画の目標策定
- 以下9団体の会員企業を対象に低炭素社会実行計画の推進状況の調査を実施
 - 日本製薬工業協会
 - 日本OTC医薬品協会
 - 日本ジェネリック製薬協会
 - 輸液製剤協議会
 - 日本漢方生薬製剤協会
 - 医薬品製剤受託協会
 - 外用製剤協議会
 - 日本医薬品直販メーカー協議会
 - 日本ワクチン産業協会
- 調査結果をもとにフォローアップ報告書を作成し、経団連及び厚労省に提出
- 集計したデータを共有

日薬連 低炭素社会実行計画対象企業



	フォローアップ 対象企業	日薬連 傘下企業
業態別 団体数	9団体	15団体
企業数	92社 (30.3%)	304社
売上高	93,099億円 (78.2%)	119,109億円

売上高（億円）



全体の約8割

対象事業場

	工場	研究所	合計
集計対象事業所	252	102	354

省エネ法 指定管理工場等	事業所数	備考
第1種	127	原油換算3,000KL以上
第2種	58	原油換算1,500KL以上3,000KL未満
無指定	169	原油換算1,500KL未満
合計	354	

小規模の事業所が多い

フェーズⅠ	2020年度の二酸化炭素排出量を、2005年度排出量を基準に23%削減する。
フェーズⅡ	2013年度を基準に、2030年度の二酸化炭素排出量を25%削減する。

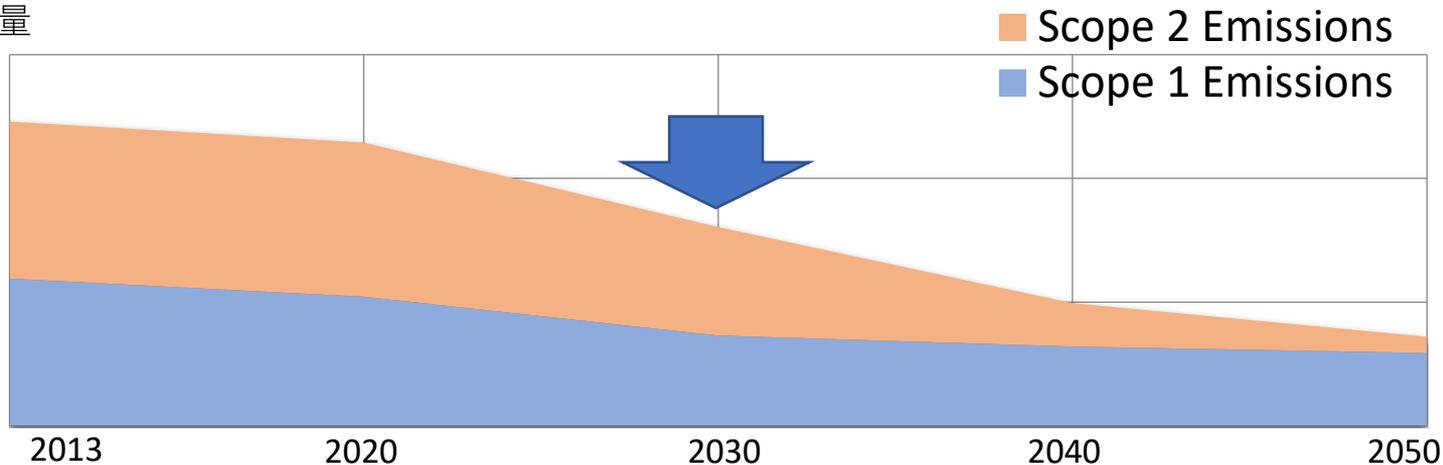
2018年度に見直し

- 業界団体・企業 : 日薬連傘下の15業態別団体の会員企業
- 対象事業所 : 工場・研究所
- 対象ガス : エネルギー起源のCO₂

フェーズII目標の見直し

Science Based Targets*に準じた業界目標

CO2排出量



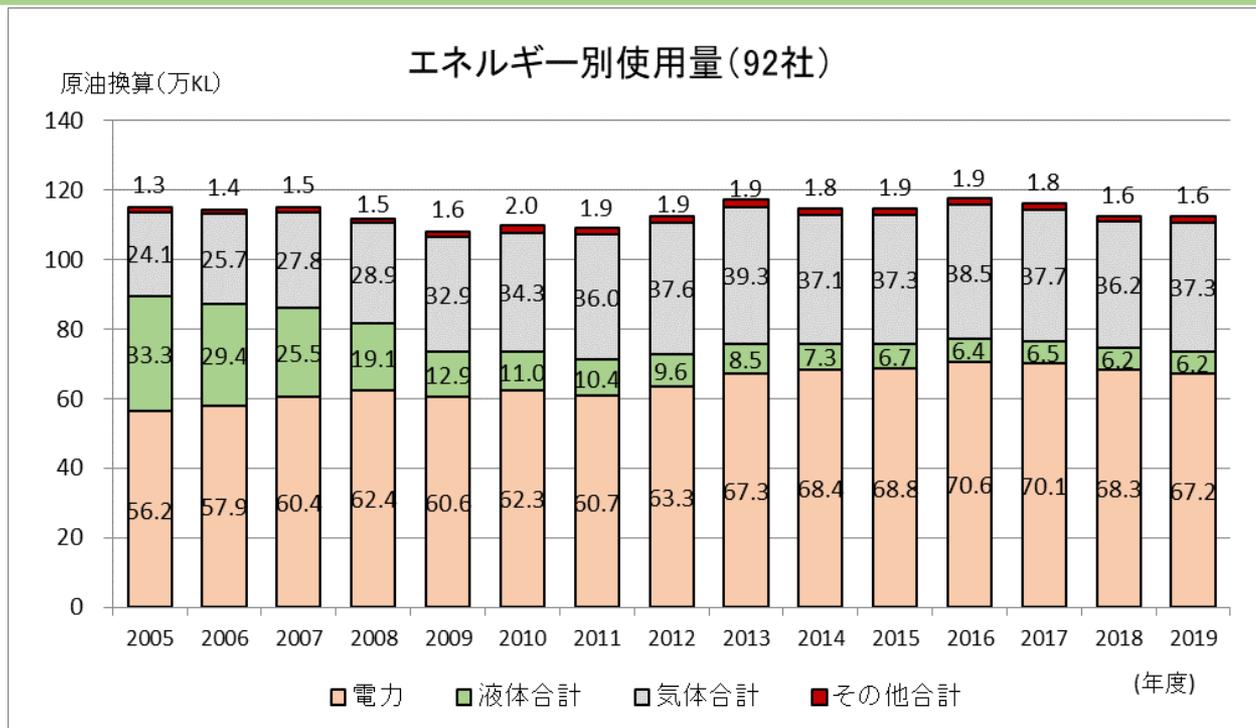
*パリ協定の目標である世界の平均気温上昇「2℃未満」の達成に向け、科学的根拠と整合したCO2削減目標を企業に求める国際的イニシアチブ

2020年度のフォローアップ調査結果



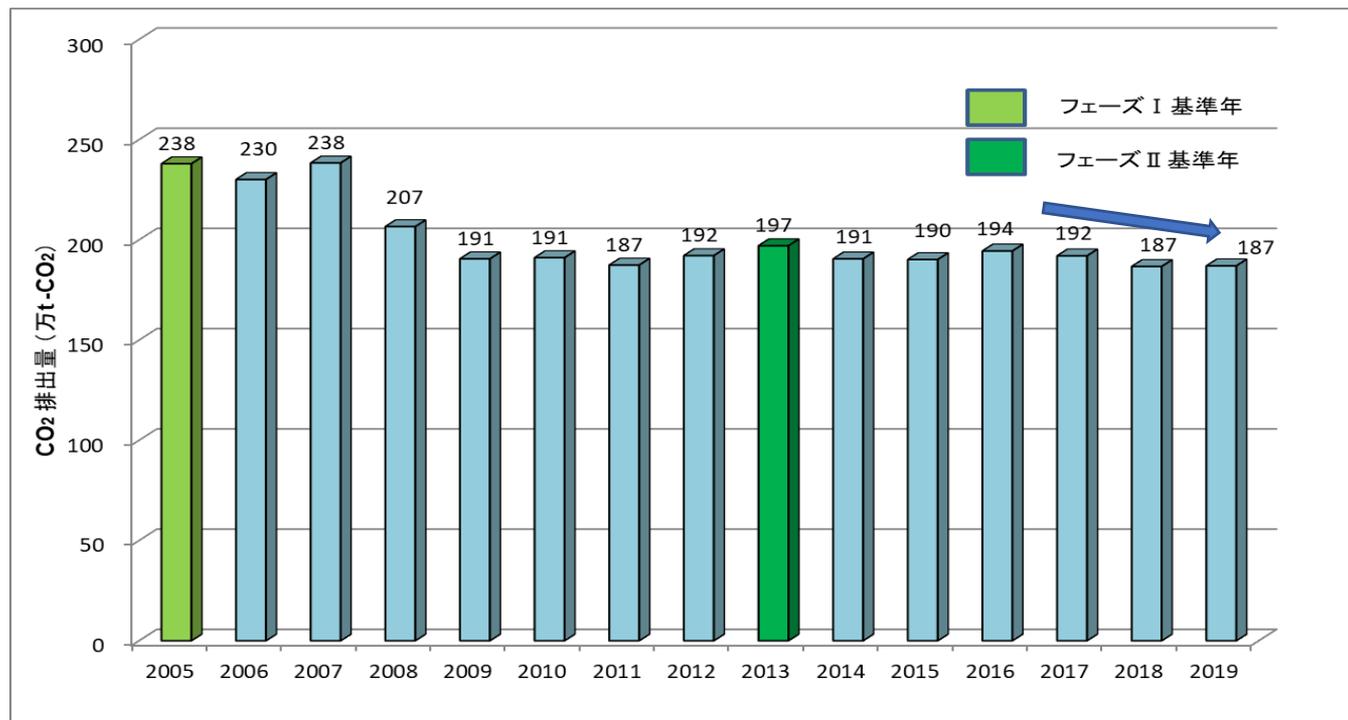
年度	2013 (基準年度)	2014	2015	2016	2017	2018	2019
売上高 (億円)	97,929	96,303	97,209	95,054	95,821	95,369	93,099
エネルギー消費量							
原油換算値 (万kL)	117.1	114.6	114.7	117.5	116.1	112.5	112.3
基準年度比	100.0	97.9	98.0	100.4	99.2	96.1	95.9
原単位 (kL/億円)	12.0	11.9	11.8	12.4	12.1	11.8	12.1
原単位指数	1.000	0.995	0.987	1.034	1.014	0.987	1.009
CO₂排出量							
万 t -CO ₂	197.1	190.5	190.2	194.5	192.0	186.7	187.0
基準年度比	100.0	96.7	96.5	98.7	97.4	94.7	94.9
原単位 (t -CO ₂ /億円)	20.1	19.8	19.6	20.5	20.0	19.6	20.1
原単位指数	1.000	0.983	0.972	1.016	0.996	0.973	0.998

エネルギー別使用量推移



電力が約7割

CO₂排出量推移



2016年以降漸減

主な増減理由

増加要因		減少要因		
生産量、研究 活動量の増加	施設の 新築・増築	地球温暖化対策 設備投資による変化	エネルギー 使用の効率化	生産量、研究 活動量の減少
41社	12社	51社	39社	26社

地球温暖化対策設備投資に
取り組む企業が多い

目標達成に向けた取り組み

・地球温暖化対策のための設備投資

- ・高効率機器の導入（インバータ導入、変圧器・空調機更新、LEDなど）
- ・エネルギーロスの低減（機器及び配管への断熱、高効率HPなど）
- ・エネルギー転換（重油や灯油から都市ガス、電気など）

・ソフト対策

- ・温度、換気回数などの基準値の見直し
- ・設備機器の運転・制御方法などの見直し

2019年度のCO₂削減量の合計は

19,503t-CO₂

今後の課題

売上高減少による
原単位の悪化

設備投資の
費用対効果の低下

温暖化による
クリーンルーム
電力使用量の増大

再生可能
エネルギーの活用

脱炭素化の
積極的な技術導入

再生可能エネルギーの活用

- 自家消費型の大規模な太陽光発電の導入(第一三共ケミカルファーマ(株)小名浜工場)
- 想定年間発電量4,155MWh



2020年12月稼働開始

バイオマスボイラーを導入した企業も

脱炭素化技術の積極的導入



熱源の電化

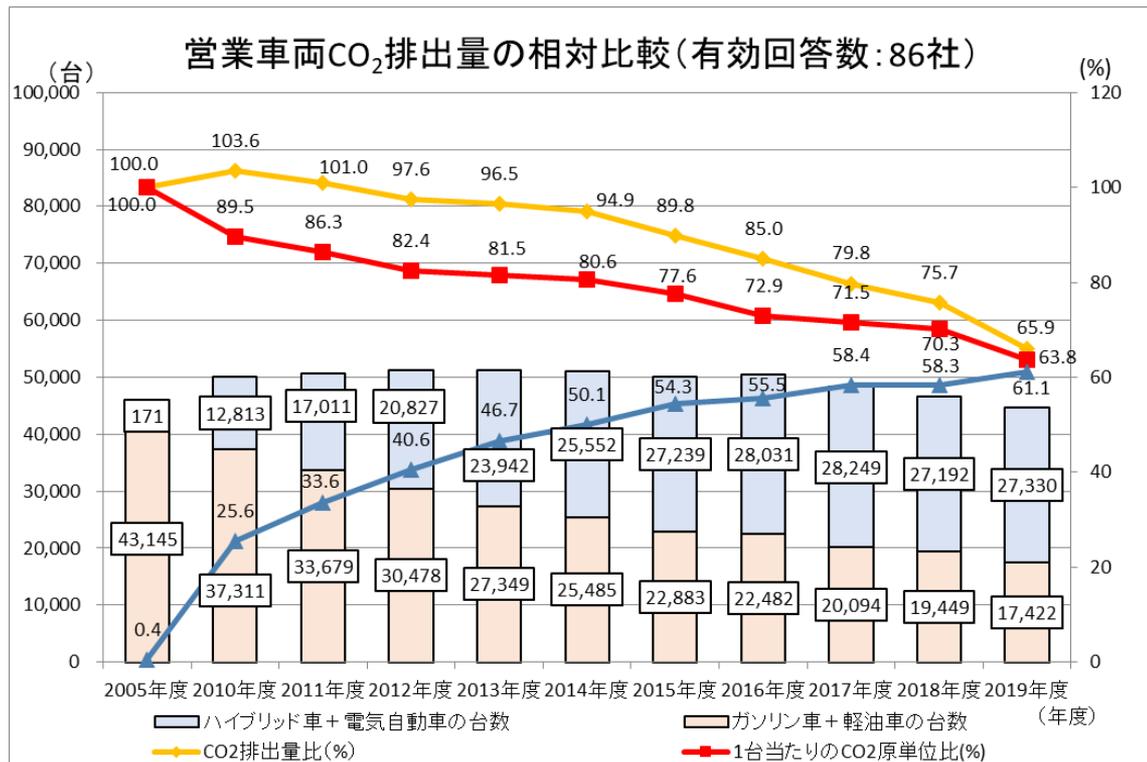


バイオマス



水素化

その他の取り組み（営業車両への低燃費車導入）

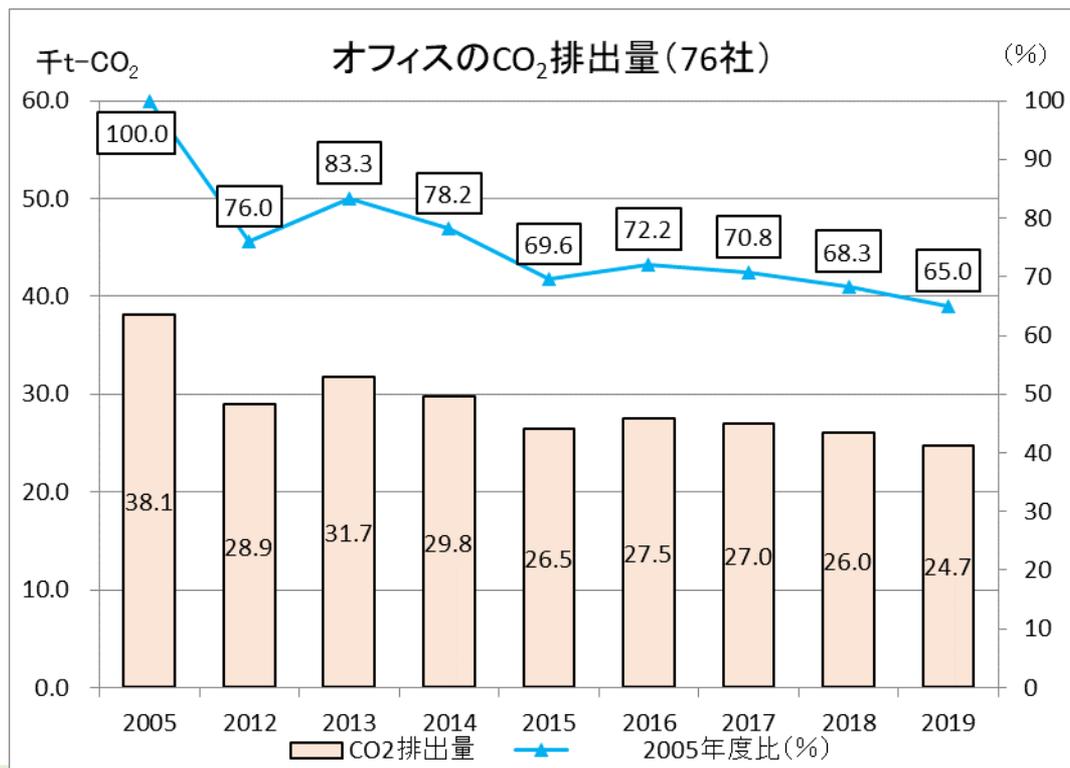


その他の取り組み（フロン排出量の削減）



年度	2000	2005	2010	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
CFC合計量	169	11	使用せず							
CO ₂ 換算量 (万t-CO ₂ e)	152	10	0	0	0	0	0	0	0	0
HFC合計量	39	111	89	74	69	75	73	81	81	86
CO ₂ 換算量 (万t-CO ₂ e)	6	24	19	15	14	17	16	19	20	22
フロン合計量	208	122	89	74	69	75	73	81	81	86
CO ₂ 換算量合計 (万t-CO ₂ e)	158	34	19	15	14	17	16	19	20	22
2000年度比 (%)	100	21.9	11.8	9.8	9.0	10.9	10.2	12.4	12.7	13.6

その他の取り組み（オフィスの取り組み）



以上